

1 日 時 平成29年10月24日（火） 午後7時00分～午後9時15分

2 場 所 西成区役所 4階 4-8会議室

3 出席者

（有識者4名）

福原大阪市立大学大学院経済学研究科教授

寺川近畿大学建築学部建築学科准教授

ありむら釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長

織田釜ヶ崎のまち再生フォーラム代表理事

（行政機関15名）

大阪労働局 大谷会計課長補佐、宮田職業対策課長補佐、ほか2名

大阪府商工労働部雇用推進室労政課 地村参事、中村課長補佐、ほか4名

西成区役所事業調整課 室田課長代理、狩谷係長、ほか2名

（地域メンバー11名）

茂山萩之茶屋第9町会長

松繁釜ヶ崎資料センター

西口大阪国際ゲストハウス地域創出委員会

山田NPO法人釜ヶ崎支援機構理事長

山田NPO法人サポーターズハウス連絡協議会代表理事

佐藤公益財団法人西成労働福祉センター業務執行理事

荘保わが町にしなり子育てネット代表

吉岡釜ヶ崎キリスト教協友会共同代表

山中釜ヶ崎日雇労働組合委員長

野崎全日本港湾労働組合関西地方本部建設支部西成分会代表

水野日本寄せ場学会運営委員

4 議 題

・本移転施設の機能について

「多様な求職者（若者、女性）ニーズへの対応」の検討

・意見交換

・報告事項

仮移転施設の整備について

労働者関係調査の実施について

その他

5 議事

○ 第23回の労働施設検討会議を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、夜間にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

○ 改めまして、毎月労働施設検討会議にご参画いただきましてありがとうございます。前回前々回と趣向を変えまして、この地域にふさわしい支援方策の検討に先立ち多様な

求職者への対応について勉強させていただきました。私自身、A´ワークさんや情報の輪さんの取組みがなされていることは勉強不足で存じ上げておりませんでした。ヒントになるお話しをいただけたものと思っています。また前回、座長からのお話にもありましたが、このような機会を更に深めていくため、具体的な内容を考えていく中でも聞かせていただきたいと思います。本日は仮移転施設、労働調査関係の報告もさせていただきます。時間は長くなりますが、よろしく願いいたします。

- 8月にはA´ワーク創造館の高見さん、西岡さんに、また9月には情報の輪株式会社の佐々木さんに来ていただき、ご講演いただきました。本テーマを皆様にはじめてご議論いただいたのは6月になりますが、その時点からの振り返りをしたいと思っています。多様な求人者として若者、女性等のニーズの対応を検討するというので、8月にA´ワーク創造館に、9月に佐々木さんに女性の就労支援についてのご報告をいただきましたが、この地域の資源を有効に利用するに当たって、極めて刺激的なお話しをいただけたのではないかと思います。それを踏まえて、新たな労働施設のあり方、機能についてどんな仕組みが必要なのかについての議論を本日および11月に皆様と深めていけたらと思います。本日はそれに向けての議論のポイント出しになるかと思っています。併せて、仮移転施設の整備の状況を寺川先生から詳しく報告いただきます。それから既に少し始まっているんですが、労働者の調査についても皆様にご紹介したいと思っています。その前に第22回会議までの振り返りを行っておきたいと思っています。

前回会議までの主なご意見として、まず会議の公開、傍聴と情報周知に向けた努力をしてほしいというご意見があったと思いますが、これについては公開が望ましいが、現状できないということだったと思います。次に南海電鉄高架下の安全確保ということですが、これについては既にきちんと行っているということでした。それから、南海電鉄高架下整地工事の適正実施ということも求められましたが、そのように実施してきたということで回答させていただきました。その他、あいりん地域に若者が定着し、まちが活性化する仕組みづくり、さらに労働施設建替えに関する地域の受け止めと、それを踏まえた丁寧な説明が求められるのではないかと、というご意見や、あいりん労働公共職業安定所と一般のハローワークの違いがあるのは何故なのか、また、きちんと職業紹介を行ってほしいというご意見、それから建設労働者の雇用の改善等に関する法律、いわゆる建労法の従事者証等の運用についてのご指摘があり、それについては、労働局からの説明があったと思います。また、あいりん労働公共職業安定所での日雇求人情報の閲覧、さらには日雇労働者の常用就職支度金制度の運用についてのご意見がありました。それを踏まえて8月、9月とご講演いただきました。A´ワーク創造館の事業の柱の一つは、既存のターゲットを絞った就職支援のための有料の職業訓練であり、さらにはオーダーメイド型ということで就職希望者の個別のニーズに合わせた講座等を開いている。そして公共職業訓練と同時に、独自の事業として課題を抱えている方に向けた訓練も行っており、さらにここをしっかりと拡大していきたいというお話しや、将来的にはアメリカにあるコミュニティカレッジの大阪版のような取組みを行っていきたいというお話しもありました。他には、就労支援がどれほど重要なのかについての話しがありました。特に、相談、生活支援の後に出口として就労が必要だが、それがなかなか進んでいない。そういう意味で、自治体だけでなく民間との連携を含めた支援を広げていく必要があり、全国でいくつかそういう動きがあることから、あいりん地域の就労を考えると参考にすることはというお話しであったと思います。9月には、代表の輪の代表であり、NPO法人ZUTTのメンバー、かつ設立者でもある佐々木さんにお話しいただきました。

一つはご自身の就職活動が上手くいかなかった経験を活かして、自ら会社を作り女性の就労支援を行っていくという当初のプロセスをお話いただきました。次に豊中を中心に、特に母子家庭のシングルマザーを主な対象としたレストラン食堂等々の立ち上げや展開についてお話いただきましたが、そのノウハウは我々も学べるものがあるのではないかと思います。こういう学習の機会から、あいりん地域の現状を踏まえて、この地域で多様な求職者ニーズにどのような対応ができるのかの点については今後の課題であると同時に、西成労働福祉センターの機能の充実、さらに多様な求職者ニーズに対応した仕組みとして検討していくことが重要であると思います。今後も可能な範囲で外部の講師を招いて、先進事例を学んでいきたいと思っております。

ここからは、本日の議題に入りますが、若者、女性や中高齢者などを含めた多様な求職者、特に就職で困難を抱えている方への支援を労働施設の機能として、新たなテーマにしていく必要があるだろうということです。本日とりまとめを行うわけではありませんが、色々ご意見いただきたいと考えています。まず議論のポイントとして、三点示したいと思います。一つはあいりん地域内における行政機関や地域の社会資源の役割を見据えながら、どういった連携が出来るかについて議論を深めること。二つ目に、あいりん地域外には前回、前々回と来ていただいた二つの就労支援団体など多様な社会資源があり、それらとの協力、連携のあり方について考える必要があるだろうと思います。そしてそれらを踏まえて、より質が高く、かつ持続可能な就労支援体制をどう構築していくかについて、組織運営という点でお金が回っていく仕組みも考慮のうえ、また組織のあり方も含めて、検討が必要だと思っています。まず一つ目の点、この地域で就労支援につながることでできるような形、あるいは労働者を含めた地域住民のニーズが一定どういったものがあるのかについての整理を行っていく必要があると思います。本来はワークショップ型がいいと思いますが、それは別の機会に行うこととして、まず皆様に自由にご議論いただき、ご意見をお聞かせいただければと思います。また障がいがある方などへの支援についてもご意見などありましたら出していただければと思います。

→ 例えば、転居して来られる若い方は、基本的に何かしらの障がいがある方で、この地域内外含めて、住むところがない方や、身寄りがなく保証人や身元引受人がいない方で、行けるところがない。なおかつ、施設などに入るほどではなく、ちょっとした支援があれば地域の中で暮らしていけるような若い人が来られることが結構あります。手帳のある方は生活保護につながっても、厳しい就労指導はありませんが、手帳のない方は、生活保護の場合、役所の就労指導が厳しいこともあり、頑張って就職活動をして働く意思があることを示せないで生活保護につながらないこともあるので、ルシアスのハローワークに行ったりして仕事を探されるが、なかなか就職につながりません。例えば、来所者で、アルコール依存のある方がおり、本人に就労意欲はあり、ハローワークで面接を何十回も受けたが仕事が決まらず、ショックなどで再びお酒に走ってしまうケースもあるので、色々なサポートをしながら仕事を探さないと難しいと思います。出来れば労働施設として、そういった方々にも相談に乗ってもらって具体的に働けるような仕組みをつくっていただけるとうれしいなと思います。

○ 一つは身元保証のような仕組みがあると。出口としてハローワークなどでも就労できない方をもう一歩手前のところで支援するような、就労体験的な働く場所があったらいいのかなど。そういうことでしょうか。

→ この地域の作業所と連携を取り合いながら、障がいのある方が働き続けられるような

日々の支援体制を作ることで、事情も分かってもらって色々な相談に乗ることができ、再び仕事を始めることが可能であると思う。まるっきり一人でやろうとすると難しいので、何らかのサポートをする必要があると思う。私共はサポーターハウスとして直接的に支援をしますが、普通の住まいに住んでいる方もたくさんおられ、その方にも、何らかの形で支援をすることで定着して仕事も住まいも確保できるんじゃないかと思えます。

- 今仰っているのは、主に障がい者手帳を持っていないボーダーの人たちのことを主に念頭においてのお話ですか。
- 手帳のある方はもちろんですが、手帳がなくて仕事に就こうと思ったときに、本当に色々な面で、例えば病院につなぐことで病院の先生の紹介で作業所に行けたりするような、そういった相談に乗れるような場があってもいいんじゃないかと思えます。
- 今回労働関係調査で若い方にも意見を伺った中で、障がいがある若者が二人おられた。一人はほぼ働かず、食べる分の月5万しか稼がないという楽天的な方。もう一人は努力家だが、なかなか結果が出ない方。質問しても悩む方で、本人は一生懸命だが形にならない。大学進学を失敗し、現在は派遣労働で3年続けている。そういった方に対して、労働施策として府は何かできないのか。
- 前回、前々回と外部の方のお話しもお聞きして、また、先ほど座長も仰ったとおり、このあいりん地域の実情に即した就労体験型の間接就労的な仕組みについて、労働施策としてどういう形で組み立てていくのかということを考えていかなければいけないと思っています。仕組みをどうしていくか、具体的な話しをどこまで詰めていけるのかについては、重要な課題であるという認識も持っています。行政からのご支援となると、それに伴う予算や、仕組みについて、さらに皆様の知恵もお借りしながら、この地域にふさわしいものを検討する必要があると考えています。
- 事例で紹介しますと、和歌山に麦の郷という福祉法人がある。元々障がい者の就労支援として農業をベースにしていたが、今は独自化している。加工品を作って、流通部分も持っていて。元々、手帳を持っている方への支援が出発点でしたが、それからボーダーの若者や高齢者、シングルマザーなどの支援を一体型で行っている。本も出されていて、課題を抱えている人たちが相互に支え合いながら回していく仕組みが出来ている。そこが評価されているのは、一般消費市場で評価される商品を作っている点であり、持続的に続いている。他には、滋賀の大津に共生シンフォニーという障がい者支援団体があり、主な事業として、有機小麦を使った無農薬のクッキー作りを行っている。従業員50人程度で2億円の売上げがある。従業員は手帳を持った障がい者と麦の郷と同じくシングルマザーや引きこもりの若者などで、そういったものがあちこちに広がっており、見学も全国から来つつある。話をするより現地に行った方がよく分かるので、一度見学みたいなものも組織できると面白いかなと思います。それから、名古屋には、わっぱの会という障がい者支援系のNPOがあり、パンを作ったり、食事を出したり、市の困窮者支援の事業を手がけるなどしていますが、近隣の市営住宅の1階の大きなスーパーの跡地に広いスペースでコミュニティカフェを開き、高齢者向けの支援サービスをされながら、元々パン工場をされていた経験を生かして、そこを合わせた複合的な施設を作る計画で、既に設計が完了し、これから建築予定であり、全国にはこういったような事例もある。
- 今の話は手帳をお持ちであればできると思うけど、唯一手帳がなくて入れる支援所は救護施設しかない。救護施設は生活的な困窮で入って来られ、そこから手帳の申請をし

ていく。手帳が取れた時点で違う社会支援につなげていく、というやり方しかないのが今の現状だと思います。救護施設の中でもハローワークで求職されている方もおられます。救護施設のいいところは社会性を得ることだが、門限があったりするので、本人が働きたいのに、門限がネックになることがある。1万5千円までは免除になるが、収入認定がされるので、それを超えたら生活保護費から収入分を引かれます。本人が先を見越していなかったり、働いても1万5千円以上は国のお金になりますよ、というところの理解がしんどい方がおられると、なかなか前に進んでいかない。お金を貯めて自立するということで、ワーカーさんとの話しの中で変わっては行くが、現在使える社会資源は、手帳のない方にとってはそれくらいかなと思う。あいりんに集まってくるのは三徳生活ケアセンターや社会医療センターの無料定額診療という貸付診療があることが大きいと思います。三徳生活ケアセンターは食事と寝るところのサービスがきちっと確保されていて、社会医療センターは薬、治療が確保されている。この二つがあいりんにあり、一時的にあいりんに来られて留まる方もおられるが、出て行く方のステップとして、就労となった時に何か仕組みがあれば、留まりながら次のステップに行けると思う。あいりんでは色んな就労支援があると思うが、どこに行ったらそういった情報がもらえるかは、阿倍野のハローワークに行くしかないという印象が強い。西成労働福祉センターは日雇いの就労という意識が強く、他の支援については広く伝わっていない。その辺りの改善について、さらに皆さんへの周知をしていかないと、作っても次につながらない。そこに行くまでの保障は救護など使える部分はあると思います。

- 手帳というのは障がい者手帳の話しか。雇用保険手帳の話が前提で話しがごちゃごちゃになっている。障がい者運動があり、障がい者を自立させよう、関わりを持とう、雇用させようということは分かる。今の釜ヶ崎の実情の中で障がい者のポジション、位置を仕分けしないといけない。それだけでも大きく費やされるが、それは釜ヶ崎の就労問題のメインではないから、バランスの議論をしないといけないと思う。更生相談所が廃止されて、各区役所で寝るところのない若者がどんどん三徳など福祉施設に送られ、その中に障がいのある人がいて恒常的に流れてくるのだから、ある施設を一つ作ってそれで対応できる問題ではないと思う。あいりん職安がどう再建され、出来ること出来ないことを検討し、どういった受け皿となるのかということ、障がい者との接点がどの程度あり、どういったことが本当に出来るのかという議論をしないといけない。いい話しや、美しい話しが出てそれをやりなさいとなっても、実行する事業主体がないし、他でやるよりここでやるのは何倍も大変な問題を抱えるから簡単に行かないと思う。
- 何もかもこの地域で受け止めることは出来ないと思っている。日雇いの仕事に就いている人や、就けなくなった人の問題が一番大きい、一方で高齢になって体が不自由になったような方が受けられるような就労の場所を考える必要があるだろうと理解しています。
- 反対じゃないけど、問題を抱えている人の支援は一人にかける手間が多くなる。この地域は何千人という話しにすぐなってくるので、一人の支援ができるのはいいが、全体の障がい者やそれ以外の人を含めた社会的サポートを投入すべき力量を測って、その中の何割が障がい者問題で必要だという議論をしないといけないと思う。
- 今議論している層の上に一定のボリュームの就労可能な層がいて、そこをどうするかも大事。この地域の強みは何か、持続可能な就労をしていくために必要なものとして住まいは準備出来るのではないかと考えている。身近な例では、簡宿は使い方によっては、よその地域にないだけに、強みだと実感している。ただ就労部分の仕事の部分は確

かに主体がないし、西成労働福祉センターは上の層を対象にしており、手を広げるというのは難しいと思われるので、Aワークみたいに外の資源を使いながら、宿の部分、救護施設もその一つだと考えていますけれども地域の中の就労支援として進んで行き、その先に仕事を生み出す仕組みを作っていく必要がある。

→ 色々な角度からの提案があり、子どもが育つ空間にしようという提案がある。賛成だが、実質萩之茶屋地域に家族が住める住宅があるのかという課題がある。簡宿が社会的資源として、単身者の居場所はあるというが、それが子育て世帯や若者世帯の子どもが住める環境を阻害していると思う。

○ ステップハウスは小家族で住めるようにリノベーションしているなど、住まいは工夫の仕方次第であり、簡宿などを使ってもう一展開できるのでないかと思う。

→ まちづくりという会議で集まってきて、結局センターの建替え問題ばかり議論しているわけでしょう。まちづくりという観点では住宅問題、地域全体として将来的に子どもが育つような環境にしていこうというプロセスを考えていかないと、単身者用の貧困な矛盾の再生産になる。

○ ステップハウスをご覧になりましたか。すばらしいですよ。

→ 指折り数えるほどしか部屋は用意出来ていないが、現状として16歳の子どもも仕事もなく行き場もない。家にも虐待などで帰れない。かといって高校に行くほどでもなく、仕事もうまくいかず、すぐ辞めるという状況。そういう問題があり、その若者たちの野宿者が多くなっている。だからどんな形でもいいから、多様な求職者若者女性を対象にした支援が必要である。16歳の子どもたちが学校にも行かず、仕事に行きたいが仕事にも就けない。ただチャンスを作りたい意思はあり、そういうことに関わっていくことが大人に対しても関わることになり、それが15、6歳の就労にもつながる。年齢もあるかも知れないが、手帳がなくして就労に困難を抱えている人たちをどうするかということ。この釜ヶ崎だからできると思うし、しないといけないと思うし、色んな職業訓練があってもいいと思うし、体験できる場所を掘り起こして体験させてもらいながら、いつかは自分たちの道を見つけていくような就労のかたちができないかと思います。今いる16歳の子は、週3日、1日4時間ぐらいだけ働きたいというような希望があり、そういった体験を出来るような場所をつくれるか、それをこの中でやってもらいたい、そうすることで初めて、就労に繋がると思います。人との関係の中で、コミュニケーションをとるのが難しい人がいる中で、就労支援に関わっていけるような施設をつくってほしい。

○ その16歳の子はどのような経緯で来られたんですか。

→ 児童相談所から来たり、他には友達を伝って来たり、日雇いをしているが野宿をしているといった子どもが、自立施設に来て、しかし施設の約束事がある中で難しくそこから出て、簡宿に行ったり。そういった子どもに体験をできるような仕組みが絶対いると思います。それは16歳の子だけでなく、30代40代の人にとっても必要だと思います。

→ そういう子は3人居てるんですが、一人は親と同居がしたくないという理由で来て、ちゃんと仕事に行っています。もう一人は障がい者手帳を申請していて、Aにつなげて清掃とスキルアップをチャレンジしていて、昔の知り合いに会うと顔つき変わってきたと言われていています。追い立てると逃げてしまうので、長い目でみて、見守りさえあれば支援に繋がっていくのかなと、そういった場所さえあればと思います。

○ 一般には例外といわれるように、就労に結びつけるような部屋は普通ないが、西成に

はある。これを伸ばせば何か作れるんです。就労支援のソフトの部分は出来るわけだから。

→ 親から虐待を受けていたり、家に帰れないために、どうしても自立していかないといけない人がいるが、一人だけの力では無理です。

○ 委員から意見の出たボリュームのある方の支援のあり方ともう一つは住む場所の提供について、さらに課題を抱えた方の支援ですが、生活の部分は何とか受け止めは出来ているが、出口のところはなかなか見つかっていない。Aさんと話の中で、訓練など就労の部分の支援は出来るとしても、Aさん自身も来所される若者を中心とした生活や心の部分をケアできる組織なりとうまく連携していく関係を作っていくと、Aさん自身だけではしんどいので、あいりんの地域の色々な方々が組織を作ってくれればいいのになという話がありました。現実には三徳寮であったり、また西成労働福祉センターがどう関わっていくかという話があったりすると思うんですが。労働団体でもそういったことはないですか。

→ 今の話しのほとんどの窓口は大阪市ですよ。生活困窮者支援法にしても、障がい者自立支援法にしても、生活困窮の住居の話にしても、変な言い方だが、労働施設問題という範疇は国と大阪府が法律に基づいた職業安定所及びそれに類した条例に基づく西成労働福祉センターを作りましょうという話しまでじゃないですか。大阪市の予算を出してものを作れよという話をするためには、大阪市の担当者がいないと進まない。そうでなければこれはただの井戸端会議になってしまうので。会議の真ん中に座ってもらって、区役所で予算出せよという話をしないと。

→ こちらから提案すればいいのではないですか。

○ 本当は福祉の担当の方もここに出てきて欲しいと思っている。ただ、今議論している若者や女性だけでなく、ホームレスの方を含めた生活支援の課題を議論する部会が無い。そこは問題だろうと去年から言い続けているが、何も出来ていない状態。なので、この労働の部会が受け止めざるを得ないと思っている。有識者も仰ったが、労働だけでなく、労働から見れば外枠にある生活支援の課題も大事だという意見を上の会議に申し上げる。

→ この会議の関係で言うと、センターを壊して更地にすると、土地は府市で半分半分だ。労働施設は南の半分にしてくれという話しになって、結局余った北半分をどうするのかと。こちらは大阪市の土地になってしまっていて、大阪市はフリーハンドだ。どれだけ労働施設検討会議で議論しても、土地半分の話で、残り半分は大阪市が建てますよと。結局大阪市がそもそも駅前ビルとして何を建てるんだという話の中に、生活に関連する要求、障がい者の問題、母子家庭の問題、若者の問題に対応する空間を設けろという話を平行して進めないと、かみ合っていないと思う。大阪市の責任者に早く出てきてもらって、結局何を考えているんだと。皆さんにお任せしますと言いながらも、結局バリアがあって半分だけ。大阪市が責任を持って残り半分の構想を出してくれと。大阪市がやるんだったら、福祉の問題とか婦人の問題とか子ども問題とか、大阪市がしなければならぬことが沢山あるんだから、窓口作ってくれと、私達も言いたいことが言える場を作ってくれと、言わないといけない。

○ 前の方への展開だけでなく、上の方への展開で行けると思っているんです、空間的に。

→ その構想も含めて、いろんなこと言われているけど、実質は私たちは何も言えないのだから、大阪市はそんな後ろに隠れていないで、トータルのマスタープランを早く、言ってくれと。

→ 委員の言い方で言うと、職安をこじんまりと建てますよ、センターは同じ機能のものを縮小して作りますよ、大阪市は市更正相談所みたいなのを小さいのを一部復活させればいいのか、3つ別々に規模を縮小して作れば、今の話で言うといいということになるよね。そんな話しをするために今までずっと話し合ってきたのかなと。それだと切ないところもある。一方で皆が得心するものという、どうなのか。ある会合で、今までも釜ヶ崎には困った人が来ていたから、これからも受け皿になればいいという人もいれば、露骨に嫌がる人もいる。今の話しの流れからすると、サポートのことを中心に考えるので、そういう人ばかりになるから、結局そういう人たちを方々から集める話しをしているのかと言われてしまう。昔の釜ヶ崎より酷いじゃないかと。昔はまだ現役労働者が大勢いて、建設業で貢献している中で、いくらか手のかかり過ぎる人がいるよねとなっていた。それを手のかかる人ばかりにして、社会貢献する人のいないまちにしてしまうのかと。それではあの空間はもったいないよね、まち全体をそういう風にしてしまうのかと、そういうイメージを今持たれつつあるのではないか。ほんとのことを言うと、どれぐらいの量なのと。現役の量がこれだけいて、それに比べてこれぐらいの量だよと示せば、まあしょうがないよね、世の中全体から見てそんなものだよ、となるかもしれない。昔から釜ヶ崎の歴史を考えて、簡宿もあり日雇仕事もあり、その他の仕事もありでやってきたけれど、実態としてどうだったのか。今話し合っているようなボーダーラインの人もいたけれども、普通に生きてる人も沢山いた。そういうものが成り立っていた。今成り立たなくなったのは時代の流れですから、お上が全面に出てやらないとならないんですと説明をするのかなと。とにかくどういう機能を持っていて、その部分でいらなくなったのは何なのか。簡宿も70年万博の頃に規制するとか言っていたが、大阪府の議員さん上げて、あそこは税金を払っている優良企業なんだから、お前たちは余計なことを言わずに応援しておけばいいと言って、結局簡宿残ってそのまま大きくなった。けれども結局、機能そのものはやっぱり時代とともに変わった。じゃあその変わったのに合わせて多様な人が入れるようなドヤに変わるのか、そういうのが本当に成り立つのか。過去からきた経緯とそれが無くなった経緯、それから将来少子化でこうなりますのでこういうイメージです、これには根拠がありますと流し込みをしないと。今を見るとここが足りない、今の現実を見たらこうなります。ここだけが足りない、他は放っておいても他がやりますよとすれば、悪い言い方をすれば不良在庫を抱えるようなまちを目指しているのかと受け取られる。他の人たちが税金を回してくれない、その気になれない。だからもう少し歴史だの何だの説得できる材料を集めて。もともとそういうのはこういう風にカバーをしていたんです、それが時代が変わったからこうならざるを得ないんですと言えるような。説得の形を考えないといけない。

○ 今のはかなり重要な話しで、いろんな人がいる中で、どういうまちを目指して行くのか調査をしていく中で出てきている。どこかで納得感というか、議論が出来る状況になってきている。つぶやきも含めて色々な意見を拾い出している。お話を伺っているというんな共有できるテーマがあると思っていて、全てをしんどい人のためのまちにしようとしているわけではないし、とはいえ元気な人だけにしようとしている人ばかりでもない。今の調査の結果としては、しんどい人もちゃんと住めるまちというか、どこかで折り合えるイメージを持てるのではないかと思います。

→ それは理屈でなくて過去の中にも明示されている。実際、戦前か戦後か知らんが、時代時代の要因によって色々変わったりしたが、何が釜ヶ崎の基本的な要因としてあったのかと言うと、貧しい人が生活しやすい空間としてあった。貧しい人は変わらないけれ

ども、そこにお上が面倒見る部分がどう変わったのかというのが一つだ。お上が面倒見る部分が社会の中でも変わっているのが変わってきた。明治の内務省がやってた頃は自助が第一、公助は後。まず地域・町会が面倒を見る、だめなら親類が見る、どうしてもだめだとことん困ったら地域自治体の生活保護申請という話だった。それが段々、実態は違うけれども、生活保護は権利になった。時代が変わっているだから、そういうときの貧乏人のまちのあり方、戦後生活保護が変わってきて、世間が変わってきて、その中で釜ヶ崎のあり方はどう変わったのか、変わらなかったのか、残った部分で来ていたから、今整理するんだと、だからこんな風になるのも当たり前じゃないのと。まち全体でいろんな機能を持っていた。その機能は外から阻害されたものが集まった、気安いのだけが残ったとするなら、福祉が一番後回しになっていたのかも知れないし、世間とのアンバランスだったのではないかと。今そこを精算する。今は世間の方が逆に、色々施策があっても及んでいないものがあると言われてるんじゃないですかと、それを包括して釜ヶ崎の貧しい人のあり方を外に伝えることも必要かも知れない。そうすれば貧困層の分散した、焦点を結ばない生活も地域の中でどうにかなるのでは、となるのかも知れない。現在多様な人たちが住めるまちにしたいという意見が出ているが、そんな抽象的な意見では何も出てこない。もっと具体的に勉強しよう。

- 議論の進め方に悩むところです。住居の話しがあった。いろんな人たち、困窮者の人たちだけでなく、子育て世代なども含めて、実態のある人が住めるイメージを作ろうとしたときに、大きな問題となるのは土地所有の問題。我々がこういうまちづくりがしたいというイメージを具体化しようとしても、実際土地を所有したり、土地を管理する権限を我々が持っていないというのが結構大きい。ある種理念先行型になってしまうのは反省しないといけない。でもそこにどう手を付けていいのかわからない。いろいろと外部資本も入っていると聞かすが、そういうところはこの地域の住居の問題なんかを考えていなくて、ある種利益追求の使い方に走っていく傾向にあるのかなと、どうやってそれをコントロールするのか見えない。正直それが一番頭の痛い部分です。
- 政策金融公庫から簡宿でも最高7億ぐらい出すという名目はある。でも実際には申告の内容であつたりとか、土地建物を担保に入れて、出来上がったものも担保に入れますと言ったところで、半分も出ない。結局土地を持っていても、次どういう展開ができますよと案が出たところで、お金が付いて来ないので、それなら売ってしまおうかとなってしまう。
- 事業を起そうとしてもお金が出ないということですか。
- そう。そこはお金が回ってこない。でも建物も古くなってくるし、時代とも合わない。三畳一間では苦しくなってくる。問題は分かっているんだけど、動けない。
- 今回の簡宿の方々に伺うのは、まさにそういう事業の展開とかも含めて、どういうことをイメージされているのかは出てくるんですけれど。
- 業界の中でもいろんなことチャレンジしようとしている人は、まだ少ないと思う。情報がないから。結局このまちを観光にというのものもあるし、それ以外でも考えていかなというものはあるけど、結局動くときはそこにお金は回ってこないで断念してしまう。
- 逆に言うと、こういう提案というか、こういうまちづくりしていくよと見せた上で、簡宿の方々にこういうプロジェクトどうですかとか、というのにお金が付いてくると、動く人が出てくるかも知れない。
- そこでね、私としては助成金は違うと思う。ちゃんと利息は払いますよと、長期低金利にしてくださいね、と。そういうのはあるんですかね。

- そういうのを西成特区であればいいのかも。
- そういうのがないと、これからも多分売り渡してしまう人は出る。
- このままで行くとそうなるでしょうね。
- 市場原理に基づいた動きが、猛烈に日々動いている。
- 例えばハウジング、住まいを作るというモチベーションに繋がるような、お金を出すようなところがあったら、また方向性としてそういうものを作ろうよというメッセージがでたら、何棟かはそうなる可能性があるわけでしょ。
- 今厚労省から出ている制度で、古い共同住宅の耐震の問題あるかと思うんですけど、1室につき100万円のお金が出るという話も出ている。それは海外から働きに来ている人が住める住宅だったり、そういう形の資金も出ている。
- 今ストック再生のための資金というのは、非常に国もお金出しているんで、まち全体にあるストックをどういう風にマネジメントするのかというのは、仕事を生み出したり、住まいを生み出したりする可能性が高いと思う。
- 簡宿の委員さんたちも言っているのが、将来像を早く出してくれと。何人が死んでいるのか。今、生活保護でいる人は補充が利かなくて、どれぐらい空き家が出て、それをどうするの。その時に周りにはホテルが出来ていて、インバウンドとって外国人が来ているとって、いつ来なくなるか分からない。今日テレビで見たが大阪に来る外国人は夜に遊ばない、みんな9時にはホテルに帰ってしまう。東京は1時2時まで遊んでいるのに、これはもったいないとのことだったが、それぐらいあやふやなものだ。極端に来なくなるかも知れない。売っていた商品も変わってきている。そういう流行に振り回させるまちで成り立っていくのか。あるいは中高一貫校で外部から子どもたちを呼んで、上手く行けばその近所に住みたいまちになるとって、その可能性はどれぐらいあるのか。家族向けの部屋にすればいいのか、それとも外国人労働者の寮まがいのものにすればいいのか。あんたらはどんな知恵と見通しで言っているのか、はっきりしてくれと言いたいわけだな。
- そうです。
- まさに今そういうのを出そうとしている。
- 労働調査はまた後で説明するが、簡宿さんに協力いただいて、簡宿に泊まっている労働者の人にも調査をしているが、福祉マンションでもない普通のドヤでも、年金生活者が増えていたり、日雇以外の方もずいぶん増えている。当初のイメージと相当違うなど。
- それは以前からそう。3分の1程度はそうだった。
- いや、センターで何年前かにやった調査があるんですが、当時は労働者の話が聞けたが、今は労働者がほとんどいないと言われる。
- 60代以上は年金暮らし、30、40代はミナミに通って単身で暮らしているってパターン。それは昔からと同じだ。簡宿関係者は知っている。
- 簡宿に泊まっている人は年金生活者なのか、日雇いなのか、派遣なのか、あるいは中小で働いているのかぐらいは把握する調査がいると思う。
- だからどうなのと思うが。
- 彼らの将来のあり方を考える上で必要。
- それは簡宿の人が知っているだろう。
- 簡宿は知っていますか。
- その件ですが、私もお客さんに声かけてみるんですけど、答えてくれるのはまず年金生活者で、その次が決まった現場を持っている会社勤めみたいな建設労働者。本当に

日々仕事を探している人はあんまり受けてくれないですよ。いても答えてくれない。

- センターで仕事を探している人は少ないよね。
- アンケートの回答者にバイアスがかかっている。
- それで困っているんです。
- それは実態でもある。そういう人たちが一定程度の票数で出てきたときの説明もいる。堅いところに行っている人、昔から簡宿に住んでて難波なんかで料理の助職やってる人はいたと思う、散髪助職もそうだし。要するに渡りで行ってる人たちは昔からいた。そういう人が今派遣になったりしている。そういう人の割合が多めに把握されたとして、それがまちづくりの軸になるほどの量では絶対はない。
- 日雇いの方にも声を掛けるが拒否されることが多い。お客さんだし、無理にやってくれとは言えない。
- 対策として今考えているのは、A4版1枚ぐらいの簡単な、質問項目も10個もないようなものだが、把握には必要かもと思う。
- 多様な方の就労に関する支援。この話しがあいりんの就労の全てのテーマでは決してない。勿論これまで同様、日雇労働者の寄り場の問題、労働条件の話しをメインに据えながら、それだけではなく、やらないといけないだろうということで議論を進めて来ました。ただ、一方でそれだけで走ってしまうと、この地域も外部のまなざしもあるわけで、まち全体のあり方議論と同時進行しないといけない。だけどその議論をする場が動いていないのか、無いのか、という厄介な状態。ここをどうするのというのは、本当に考えて欲しいと思う。労働施設検討会議だけが先行してしまう。ここで議論している話が全体のイメージになってしまうような、錯覚を我々自身も持つ形になってしまっている。
- だけどそうしないと労働施設が建たない。理屈がないと施設そのものを辞めてしまおうかという話になりかねない。
- そんなに危うい話しですかね。
- 3つをこじんまりと建てて、それでいいとなったら、安上がりで済む。それでも必要ですという理屈は大きなものを含めて言わないと出てこない。まち全体の機能の中で労働施設はこんなものですよ、新しい時代に合わせた機能を付けないといけませんよとすれば、お金は付きやすい。
- そのための調査です。
- 会議でも意見があったキッズニアを付ければ、子供連れの人が増えて小中一貫校に来る人が増えますと説明するとか、うちのマンション建て替えるときにちょっと家族向けにしてみようかなとかなるだろう。
- どこか花園公園の近くにでも、そういうのが一棟建てば影響力あるのになとは思っている。
- あの萩之茶屋駅前にホテルが出来たらしい。あそこは一泊6,000円らしいな。
- あそこで前の建物を潰して土地を買ってとなると、今までの値段では出来ないんで、最低でも3,500円から4,000円はかかると思う。普通にすれば5,000円ぐらいになってくるのは当然でしょうね。
- やっぱり商売人は偉いと思う。あそこ2、3年は1、2割の宿泊やろうけど、それでも将来的にはペイすると思って、高い値段を維持しようとふっかけてやっているのは。
- それは違う。あそこは中にバストイレ付きで今までのドヤとは違う。

- 今出来てるのは、ちゃんとしたホテル形式です。
- ホテル形式で、インターネットで中国と韓国と、ホームページも中国語と韓国語。日本人は最初から相手にしていない。
- 新しく出来ているのは、委員が言うようにバストイレ付きです。
- ほら時代はもう放っとも変わってる。
- 6, 000円、7, 000円ぐらいのところもあるんですよ。
- 旧来の簡宿でやってて建替えたところは3, 500円ですけど。よそから来たところは5, 000円の値段でやってますね。
- でもそういう外国人向けでやってるけど、さっき言われたようにずっとそうは続かないと思う。まちが強くなるっていうのは、いろんなものがあって強くなるって言えますから、同じものばかりでは強くない。家族向けの住宅も絶対いるだろうし、そういう観光客向けもいるだろうし、簡宿の人向けもいるだろうしと、複合的にまちが成り立っているというのが強さになると思う。
- 誰がそれを言うのか。
- そこは大事だと思う。
- 下手に調査したら、労働センターなんていらなくなるかもしれないな。
- そうはならないと思う。
- だからこそ釜ヶ崎とはなんだったのか、今の社会の中で必要ないのかというのをやらないと、と言っている。例えば困った人が、ここでじんわり待って出直そうというまちがここで必要やないかと、皆さんも言っている。で、それをあんまり抽象的にしてもだめで、あんまり具体的にボーダーの話ばかりしてもだめなのではないか。
- それで言えば、今ちょうどいい調査をしていると思います。
- 色々ご意見をいただいたので、有識者でも持ち帰りたい。
- 今ルシアスにある職安がこちらに引っ越してくることは不可能ですか。
- 今の段階で申し上げると、利用者ニーズを考えると現段階ではないとしか言えない。
- 新しい建物になると分からないですよ。
- 新今宮ってところが。
- 今天王寺の方でかなりご利用いただいています。例えば新今宮に移転して来ましたとなると、どれだけの利用者があるかということ調べてみないと分からないですけど、一つは乗降客だけ取ってみますと天王寺駅は70万人。新今宮駅は7万から10万人。それを考えても、利用客は新今宮に越してくれば減ってくるんだろうと思う。そういう意味で国民ニーズをとらまえると、今の段階では天王寺から新今宮にということは、国としては考えられない。
- 立派なもの作ればいいやないか。
- 阿倍野ハルカスに対抗して作ろう。
- ルシアスは借りているんでしょう。
- はい、この間ご説明したとおり借りています。
- 今度自分とこの持ち物で建てられるとして、賃料がいらないとしたらどうなのか。
- 基本的に土地は大阪府さんと大阪市さんで、国有地はないんです。
- いや、大阪府は安く貸してくれる。ただで貸すって言うだろう。
- ただでは貸してはくれないでしょう。
- ずっと安いっていうのはないでしょう。
- でもいろんな機能を新たに追加して職安っていうのも作っていったらいい。

- 駅前で立派なもの作れば、環状線でみんなも見ているのだから、来るだろう。
- まあ、ないってことはないということでしょう。
- あくまで今はということです。例えば本当にとっても立派なものが出て、その中にいろんなものを入れ込めばとなれば、我々としても検討していかないといけないと思う。
- それが今、一番早い。
- ここに来ればどれだけ増えるかっていうのも大事。探す人たちは来るのだから。不便だから来ないという訳にはいかない。こっちに来れば、来るんじゃないかな。
- 今何人ぐらい来られているんですか。
- 今はロシアスの方はいっぱいあって、この前お話しした若者向けハローワークがあったり、元々本移転する前の分庁舎として残っているのもあるんですけど、若者向けハローワークは年29,000人ぐらいの利用がある。ロシアスの分庁舎で年間85,000人ぐらい。こちらでその規模を維持することが可能で、借料も安いのであれば考えないといけないと思う。
- 行く人は行く。ふらっと寄る人にとっては、行きやすい場所というのはニーズが高いと思う。ただ、行くために行く、目的を持って行く場所なので、そういう意味でいうと、ある意味の集客というか、人の寄りやすい場所だとは思いますがね。
- 今日、若い男性がセンターで一生懸命に見ていて、ここはどんな場所ですか、仕事があるかなと思ってきました、と話していた。意外とそういう人がいてる。
- 目的を踏まえた計画するのはあるかも知れませんね。
- これも含めて、今後の検討課題にしたいと思います。
- 時間の都合もあるので報告事項に移る。2つあるが、まず仮移転先の整備について報告願う。
- 今日も最後の方で、ほとんど出来ないという状況なので、仮移転関係は別の機会にしっかりと時間を取っていただくということをお願いしたい。
- はい。ちょっと時間がもうないですけど、職安部分を端的に説明されたい。
- 待合図面の点線部分ですが、3人掛けの椅子を30脚設置する。
- これは背もたれ付きか。
- 背もたれは今のところ考えておりません。ご意見として背もたれがあるのであれば、それは別途ご意見を聞きながら進めて行きたいと思います。
- 待合の60平米に認定の窓口とかあるのか。
- 支払いと認定の窓口を設けます。
- 60平米っていったらどのくらいなのか。
- この会議室が大体そのぐらい。
- 狭いよな。
- 窓口は5つか。
- 窓口は5つぐらいを予定しているんですけど、ちょっと狭いなという話はあるかもしれない。ただ、右側の待合でお待ちいただいて、モニターというのが左側に2つあるが、そこで順番にお呼びしていくような形にして、60平米の待合に滞留しないようにする。
- この真ん中は道路ですね。
- 道路でして、以前もここの交通が危ないじゃないかと話もあって、図面上は表記していませんけど、ガードマンを設置して誘導案内をしてはという話もいただいていたから、別途検討をしています。モニターも設置しますとご報告していましたので、2台設置する予定です。下に置くと場所を取りますので、上からの吊り下げ型にする予定です。

- す。
- センターも職安もだけど、自分たちの仕事する場所とか休憩する場所は、ゆったりと取っているけれど、職員さんがみんな自分の職場を掃除して帰るのか。今の建設現場みたいに。
- 事務所の清掃ですか。
- いや、周辺も含めて。例えば今センターの清掃要員が溜まり場を作ってやっている。ガードマンにしろなんにしろ。そういう人が溜まる場所とか、清掃道具の置き場とか、一切設けないなら別だが。正規の職員が便所掃除もきれいにしますというなら別だが、別個に置くのならスペースも含めて設計図を書かないと。どこにもそういったことがない。公的な施設やのに動きがない。働く人達のエリアは一切考えない。そういうのが大体通例だから。最終的にどういう風にやっていくのか。
- 清掃要員の詰め所は中二階、一階になるのかな。仕事するときの詰め所っていうのは仮囲いしたやつと、今センター周辺のプレハブみたいな詰め所が一箇所ある。私もさっきから聞こうとしていたけれど、この図面では見えない。
- 気になることが出てくると思うので、どんどん言ってもらった方がいい。ただ、もう時間がないので、いつも報告事項は会議の最後になるので、仮移転系はもうちょっとしっかり時間を取らせていただきたい。仮移転をもう少ししっかり見てもらう時間を次回取りましょうか。私も気になることがいっぱいあるので、次回は、これだけでやっても良かったらと思う。
- じゃあ、宿題というか意見今言ってもいいですか。駐車スペースは限りがあるのは理解しているが、これ以上に必要になった場合の対応は。これで限界です、決めました、終わりですなのか、ここに収まらない場合はこういうオプションがある、使い方があるっていうのか。
- 変動があって当然。
- この図面を持ち帰っていただいて、色々チェックしていただきたい。
- 持ち帰っていただいて、次回にご意見をしっかり聞かせていただきたい。
- 事務室は400平米もいるのか。
- 現状は700平米弱ある。半分近くまで、削って削ってこのスペースですので。これ以上は難しい。
- これ何も置いてないので広く見える。
- 柱の関係もあるので。図面左下にも書いているが、面積は現時点の概要ですので。
- 左端の柱の辺りに清掃要員の溜まり場とかガードマンの溜まり場とか考えてくれな  
いかなと思った。事務室は400平米もいるかなと思っただけだ。
- これでもかなり減らして、待合の面積を増やして増やしてこの面積になってますので。
- 今職安の職員は何人いるのか。
- 今20名少々です。
- 20人で400平米を使って、こっちには何人。
- いや、これから沢山仕事してもらわないといけなから、スペースを取っておいても  
らわないと。
- 今回ようやく設計があがったものですので、じっくり見ていただければと思う。
- センターのスペースはちょっと削りようがないだろう。相談スペースとかは。
- 融通し合えるのがいいなとは思いますが、どこまで出来るかというのもあります。  
とにかく次回は時間をとってもらいます。

- 居場所の問題についても、詰めていく必要があると思っています。
- もう一つの報告事項ということで、調査票を用意しています。労働者の就労並びに新しいセンター、職安への要望についても聞いているということでお示している。もう一つは、まちづくりビジョンについての調査票もあって、先ほど気が付いたが今日入ってなくて、皆さんにお示ししないといけないと思っています。事務局（大阪市）の方から後で皆さん方に送っていただくことは出来るんですか。
- 労働者の皆さんに対してはこの調査票とまちづくり調査票の二つを使ってやってるので、二つをきちんと周知して、ご理解いただくとともに、皆さんにご協力いただきたいと思っています。
- 今日時点で調査に協力してくれた人が55人。目標の5分の1。この後11月に入れば、特掃利用者、センター利用の野宿されている方にも調査を行なう。そちらは30分程度の簡単なものを考えている。特掃については、支援機構などとも協議しながら中身を詰めていく予定です。そういう意味で皆さん方には協力をお願いしたい。調査については労働者の間にも広まっていて、進んで協力していただける方もいてらっしゃって感謝しています。
- こちらのインタビュー体制が追いついてなくて、体制が取れていたら70人はお聞きできていたと思う。
- まちづくりビジョンについて、町会の方々、簡宿のオーナーの方、小中一貫校の校長先生にもご協力いただいている。小学校のPTAや子どもたちにも協力いただいて、今度ワークショップを行なう予定です。その他、生活保護受給の方、ケアマネージャーなどかなり幅広い方に調査する予定で、それを踏まえて今後のビジョンを作ろうとしている。
- 調査の方で協力いただけるのはありがたい。ただ、センターの窓口我突然来られることがあるので、どうしても体制が追いついていないということでお断りしないといけないこともあるので、できましたら事前にご連絡いただくとありがたい。
- 学生が一人ひとりに協力をお願いして調査しているのではないの。
- 学生は、まだしてないです。協力をお願いしているのは私と事務局メンバーです。
- 受益者調査でも、それ行けと皆撒きよったよ。
- 今回はセンターでばら撒く訳にいかないんです。センターには生活保護の方も、特掃の人も、野宿の人もいる。働いていることを前提で調査やっているので。声掛けしながらやっている。
- 学生に協力の声掛けをしてもらえばいいのに。
- もう一つは、朝、職安の前で声掛けをしているんですけども、いつもマイク持ってやっている人がいるので、学生が怖がってしまっています。今日は遂に監禁とまでは言わないけど、鍵掛けてするような調査は許せないと目の前でマイクでがなり立てられました。それに学生が反応すると、「その学生、何だお前は。」と怒鳴られて、怖がっていました。監禁なんかしてませんよ。センターは9時から業務始まるので、通用門使って入ってもらってるだけです。と後でマイクなしでお話しをして、説明はしました。労働者で監禁されたと怒っている人はいるんですかと聞きましたが、「そんな人は聞いていない。」とのことでした。それに関係して事務局から。
- 去る10月20日ですけども、あいりん地域まちづくり会議委員稲垣様から、労働施設検討会議に出席している大阪労働局、大阪府、大阪市の職員への要請を、書面で頂戴いたしました。本日の報告資料としているアンケート用紙の公表についてもご要請が

ありましたが、12月に労働問題に特化した議題で集中的にご意見をいただく予定ですので、そこで回答も含めてお話しをさせていただこうと思っております。まちづくり委員として労働施設検討会議に出席している職員へということですので、この場でご報告と対応予定をお話しさせていただきました。

○ 最後にまとめを簡単にします。

今日の議論を踏まえて、次回も引き続き、多様な求職者のニーズへの対応について、今日はまちの全体のあり方の議論まで膨らんできましたので、それも含めてしっかり検討しないといけないと考えています。

もう一つは、仮移転の内容について皆様からご意見を聞かせていただきますので、次回は仮移転を先に進めたいと思っています。

12月については、先ほど事務局からありましたが、あいりん地域まちづくり会議委員からの要請も含めて、労働問題に特化した議論も進めたいと思います。あと、事務局から次回の開催について報告してください。

○ 次回お時間をいただいて6月にご質問をいただきました、OSAKA仕事フィールドでの相談実績や規模のご報告をさせていただきますので、次回11月の会議の際、関連の資料2点だけお持ちいただきたいと思います。

本日お配りしている第22回議事概要案について、修正等がありましたら10月31日までに大阪府商工労働部事務局までお知らせください。なお、8月の議事概要はホームページに掲載しております。

次回の第24回労働施設検討会議は11月21日（火）19時から開催させていただきます。来月はじめにご案内をお持ちさせていただきますのでよろしく願いいたします。